

# 教職大学院 NEWS

Vol. 57

2025. 3月発行

三重大学大学院教育学研究科  
教職実践高度化専攻



## 7期生へのお祝いのことば

専攻長 織田泰幸

7期生のみなさん、修了おめでとうございます。この2年間、皆さんが真摯に学び、交流し、高めあう姿を見てきました。「もっと学びを深め続けたい」と思っている方がたくさんいるのではないのでしょうか。「後生畏るべし。焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや」（『論語』子罕より）。これは授業で紹介した私の好きな言葉ですが、みなさんを見ていて常々そのように思っていました。これからはみなさんが、教職大学院で学んだ学修の成果を、子どもたちの高次の学びへと還元する番になります。みなさんが子どもたちや同僚の先生方から慕われるよき教師となり、リーダーとして活躍することを祈念しております。

## 2年間をふりかえって

～7期生が教職大学院で出会った“ことば”～



### あなたの問題意識はどこ？

こんなに考えぬいたのも、こんなにたくさんの本を読んだのも、こんなに人と深く話をしたのも、人生初めて、という2年間でした。研究を通して様々な人と出会うことができ、そこで素直に自分の考えを言い合える環境はとても心地よかったです。たくさんの方にお世話になりました。2年間ありがとうございました。（大西春菜）

### 『太い幹』を持つことが大切

教職大学院に入学したばかりの頃、自分の関心のある研究分野の先生からいただいた言葉です。挑戦したいことがたくさんあり、あれもこれもと思っていた私にとって、自分の性格を客観視するきっかけになりました。その言葉のおかげで、自分の行動に迷いがあった時は「自分の幹」を意識して物事に取り組めるようになりました。（越村真希）

### 人と比べない！！

私が勝手に人と比べ、弱気なことを言うと、指導教員の田中里佳先生はいつも「人と比べない！！」と叱咤激励してくださいました。先生のおかげで、私は「私らしく」、「私にできること」を大切に、研究を進めていくことができました。これからも学校教育の最前線で学び続け、人と比べずに「私らしく」実践を続けていきたいです。（曾根崎藍）

### 受け取ってもらえなくて良かったよ

私が提出期限に課題を出せず、後から出して受け取ってもらえなかった時の話を指導教員の先生にした時にかけてもらった言葉です。ここで受け取ってもらえなかった経験が、この先の失敗を防いでくれるかもしれないと教えてくれました。優しさだけでなく厳しさが人を成長させてくれることを学びました。（太田味佑）

### 子どもを見る

講義内容や教授の助言にあった言葉で、特に印象に残っています。この言葉をもとに、子どもにどうなってほしいのか、子どもの成長を大切に考えるようになりました。子どもの可能性を引き出せるよう、「子どもを見る」力をつけ、子どもが成長できる環境づくりをしていきたいです。（中島大賀）

### 『学習指導』『生徒指導』の両輪で、日々の『授業』を積み重ねる。

連携校の担当教員が言われていた言葉です。授業の中で、子ども同士の聴き合う関係を作り、他者理解を大切にすることで、安心できる人間関係が教室に生まれていました。大学院入学時は、誰一人取り残さない授業づくりについて、私は漠然と考えていましたが、実習を通して、学級担任としてのビジョンを持つことができました。（水谷匡伸）

### 先生は特別な人間ではなくサラリーマン

最近貰った両親からの手紙に書かれており、「サラリーマン」という表現が特徴的でした。過度な理想や責任感に縛られるのではなく、一人のサラリーマンとして等身大の自分で仕事と向き合うことの大切さを教えてくれました。肩の力を抜きながら、この道を歩んでいこうと思います。（森田琴美）

### 見ようとしないと見えない。見えるようになるまで10年かかるけど。

1年次にお世話になった先生のことばです。毎回の実習を終えるたびに、授業の見方や授業づくりについてお話しさせていただきました。授業中に1人ひとりの子どもの表情や姿を捉え、授業を改善していくための目を鍛えることを意識するきっかけになりました。(浅井敬介)

### (全15回の講義のうち)どの授業も「いい授業」にしたい

織田先生の授業観についてお伺いしているときでした。15回の全ての講義に対して十分に準備して臨まれており、どの授業も手を抜きたくないというお話で、私自身は全ての授業に対していつも全力で取り組んでいるだろうかとハッとしました。織田先生の講義が大好きで取れるものは全て受講しました。もう受けられないのが本当に悲しいです。(安達加弥乃)

### 次の発表も楽しみにしています。

学会や研究会では多くの方々から私自身の実践・研究に対して助言や新しい知識をいただきました。自分の研究に対して「こんなので良いのかな…」と自信がなかったときに、この声をかけていただきました。自信も元気も出て「次は自分が他の人に刺激を与えられるように頑張っていこう！」と思うことができました。(紙谷航希)

### 私があなたたちぐらいの年齢だった時も最初は全然できなかった。

1年目の或る授業後に私はこの言葉と出会いました。この授業では教授の圧倒的な知識量を前に私は自らの力不足を痛感しました。しかし、その教授からかけられた言葉によって私は、誰もが出発点は同じであることに気づきました。どれだけ時間がかかっても一歩ずつ進む、この気持ちが最後まで私の背中を後押ししてくれました。(喜多一貴)

### 自分の言葉で書きなさい。

この言葉は、指導教員の先生からいただいたものです。報告書や授業のデザインシートを作成する際、文献の言葉に頼りすぎてしまうことがよくありました。しかし、この言葉のおかげで心が軽くなり、理論に基づきながら自分の言葉で伝えたいことを明確に述べられるようになりました。(小島一輝)

### ものごとをよく見るための顕微鏡が理論や概念

教職大学院に入学してまだ間もないころの講義で聞いた言葉です。この言葉は私のなかにスッと入ってきて、教職大学院で学ぶ理論に価値づけをし、私の学びを支えてくれました。教職大学院で学んだことを活かしつつ、今後も理論を学び続け、日々の実践を見つめなおしながら研鑽を積んでいきます。(小林勇登)

### 授業が下手だと気付けたなら、必ず今よりうまくなる。

私の指導教員に、連携校実習での授業を見ていただいた後の検討会でかけていただいた言葉です。実習での授業がうまくなかった私が、また前を向き、残る授業実践に打ち込めるようになりました。現在も常に反省点を見つけ改善することを心がけています。(末廣隼祐)

### 君が生涯をかけるに足る問いが、見つかるといいですね。

昨年度退官された先生に、最後の挨拶に伺った際の言葉です。研究テーマが定まらないまま1年目が終わりそうな時に、あと1年で終わらせる必要はない。むしろ、終わってしまう問いではつまらない。と言われたように感じました。1年がたった今、まだその問いは見つかりませんが、これからもその問いを追い続けたいです。(土谷明匡)

### いつも最後まで練習に付き合ってくれて嬉しかった。

二年間部活動で指導した生徒からの言葉です。色々アドバイスをしたり練習の球出しをしたりしましたが、個人と向き合い、試行錯誤の時間を共有するということが生徒の心には響くのだと学びました。これから学ばれる皆さんにも実習だけでなく、非常勤や部活動など、将来を見据えた実りある時間を過ごしていただければと思います。(牧野果恋)

### 7割ぐらいの力でやるのが大事

ゼミの指導の先生にかけていただいた言葉です。大学院での研究や実習での授業実践で自身の未熟さを痛感し、大学院修了後に教員としてやっていけるか不安と焦りがあった所にこの言葉をかけていただきました。何気ない言葉でしたが、これからの教員人生について凝り固まっていた不安が少しほぐれたように感じます。(松原健)

### 言いたいことを書けばいい。

1年生の終わり頃、学修成果報告書の方向性を見失い、何人かの先生に相談に行きました。その際、どの先生にも、言いたいことがあるように見えるからそれを書けばいいと言われました。当時の私は、自分の考えを明確な言葉にできず、先生方からヒントを得ようとしていましたが、この言葉によって、答えは自分の中にあるのだと改めて気づくことができました。(村鳥舞鈴)

### 導く教員にならない。

私が校内研修に同行させていただいた先生が研修内で仰っていた言葉です。教員が一方向的に答えを出すのではなく、子どもと共に考え、成長する姿勢が大切です。子どもから質問された時、即答する必要はなく、答えを出すことよりも、子どもと一緒に探求し、考える過程を大切にすることが、教育においては重要だと考えるようになりました。(錦織伸行)